

2011. 6. 2

すっかじい、パパ、ママ気分

大山中 赤ちゃんと触れ合い

大山町所子の大山中学（林原範夫校長、百六十人）で、生徒と赤ちゃんの触れ合い会があり、生徒たちは赤ちゃんのぬくもりを体感していた。



ニッコリ笑う赤ちゃんに生徒たちも大満足

「赤ちゃんとの触れ合いを通じて、命の尊さを学んでもらおう」と、町教育委員会、同中学校、NP

〇法人未来が企画した。O 法人未来が企画した。「こんにちは赤ちゃんふれあい会」と名付けた会には、三年生の男女二十六人と町内のゼロ歳児の親子七組が参加した。子育てアドバイザーの松本寿栄子さん、助産師の田中恵子さん、保育士

の木谷邦子さんらの指導で、生徒たちは人形で赤ちゃんの抱き方などをみっちり教わり、グループに分かれて親子と対面。初めは恐る恐る抱いていた生徒たちも、お兄さんやお姉さんの顔を見てニッコリ笑う赤ちゃんを

見てすっかり「パパ、ママ気分」。あやしたり握手したりしてスキンシップ。そばでお母さんたちの顔もほころんでいた。角田遼典君は「かわいくて柔らかくて、本当に親の宝物だと思った」と初体験の感想を語り、若いお母さんたちも「身内以外の人に抱いてもらい、あらためて自分は親なのだ」と実感した」と話していた。

（大山通信部・水尻和子部長）